

岩手県立花巻農業高等学校

生物科学科 2年

発表メンバー 瀬川 徳馬 藤原 蓮

研究メンバー 阿部 佐枝子 阿部 美海 及川 侑大 佐々木 颯太
高橋 太陽 藤原 蓮 吉田 心結

1 昨年度までの内容と課題

- ① 私たち花巻農業高校での畜産経営としては、これまで繁殖中心で、肥育については知識も経験もありません。そのため、本来の食肉の生産という面では、目標が見えていないのではないかと考えました。そこで、これからの花農は、肉牛のことをもっと知るために、肥育までの一環経営を目指したい。しかし、私たちは、肥育初心者です。だから、地域の力を最大限に生かすことにしました。その地域の力は、私たちのすぐ周りにいる農協、獣医師、受精師、農研センター、地域農家。これら普段からお世話になっている方々を勝手にサポーターとして認定しました。
- ② そこで、肥育技術を向上するために、その足がかりとして、一昨年度は、甲子園への初挑戦を決めました。私たちの牛群の中で白羽の矢が立ったのは、美国桜を父に持つ令和元年8月20日生まれの安春号です。
- ③ こうして、初めての肥育を開始しましたが、課題となったのはビタミンAのコントロールでした。肥育後半に定期的な血液検査を行ったものの、尿石症を発症。体調を崩して、体重も一時減少する事態となりました。
- ④ 和牛甲子園での結果は、惜しくも入賞はなりませんでした。全国の高校牛児とつながることができました。
- ⑤ その後、和牛甲子園出場の振り返りとして食味（官能）検査を行いました。対照として、松坂牛を選択。評価基準については、地元の肉加工業「銀河フーズ」に問い合わせたところ、食肉の官能検査基準は存在しない事が判明。「同等級との和牛同士の比較でハムソーセージ同様の評価基準を参考に、条件で①焼きテスト、②素のまま評価、③均一に味を付けなどの項目で実施しては」とのアドバイスをいただき、このような独自の基準（スライド）で実施しました。結局は、思い入れが強かった分、完全に主観となりますが「安春」がおいしいという結果となりました。

2 今年度の試験

1) そこで、昨年度までの反省を踏まえて、以下の通り課題を設定しました。

- ① 昨年度からの課題として、適切なビタミンAのコントロールが必要だと考え、推移を肥育初期から追跡する
- ② そして今年度からの課題1では、血統の違いによる測定値の違いを比較するために、小豆号と大豆号の2頭で実施することとしました。この2頭の選定理由は、2代前の種が「美津照重」と「来待招福」の違いがあるだけで、父、出生日も同じという奇跡の2頭です。
- ③ 次に課題2として、「安春号」の飼料給与では、ち密に飼料設計がなされており、肥育に関する基準値などを比較する際に、原因の特定が難しいという意見が出ました。そこで、農業研究センター種山牧場の篠原さんに飼料給与を極力単純に設計していただき、最小限の管理（セオリー）の確立を目指しました。

2) 以下、課題の実践と結果です。

実践1 リアルタイム血液検査（獣医師との連携）では、

肥育初期から月1回のビタミンA及びコレステロール値の計測を行い、基準値と比較しました。

・その結果、上がるはずのないビタミンAの値が、基準値を大きく上回ってしまう結果となりました。

この原因として、休日の飼養管理また給与している藁の成分か、現在、検査機関を模索しています。

・コレステロール値は、おおむね良好でいたって健康。

しかし、肥育牛は、芸術作品。健康と不健康のギリギリのラインを追求するという大野獣医師の下で、数値の挽回を目指しています！！

実践2 体重測定及び主要な体尺測定

基準値との比較 体重については、ほぼ、基準値通りとなりました。

そして、私たちが立てた仮説のとおり、体重の推移では、2代「美津輝重」と「来待招福」とで差が開きはじめました。

また、体尺においても、体高で差が開きつつあります。

さらに、昨年度出品牛安春号との比較では、この通りとなっており、基準値を上回る小豆に期待が持てる結果となっています。

実践3 継続的な研修では

母牛の評価について学習するために基本登録会場の見学

生産した牛の評価や市況について、見識を深めるために市場出荷体験及び見学

畜産業としてより広い視野を持つことを目的として、盛岡農業高校での乳牛の牛群審査会場の見学と家畜審査競技への出場をおこないました。

3 今後の課題

1) 肉用牛のセオリーを探求するために

数値の正常化に向けた分析及び飼養（飼育環境を維持する為の連携（花農サポーター））

畜産研究所との飼料給与体系の確立

2) そして、今後の予定としては

12月 全農主催 枝肉研修会（いわちく） 13日

肉用牛生産向上講習会（岩手県）

血統及び系統研修会（講師 全農検査員）22日

1月 畜産研究センター 種畜牧場見学

2月 生産者農場見学

を予定しています。

このような、私たち初心者集団が、岩手に新たな風を吹き込むために今後も奮闘を続けます。

ご清聴ありがとうございました。